

民俗学的文献中の石に関する資料

本 間 久 英

地 学 科*

(1995年3月7日受理)

HONMA, H.: Data on stone in ethnological referatures. Bull. Tokyo Gakugei Univ. Sect. 4, 47:155-175(1995)
ISSN 0371-6813

abstract

Names of stones with the ethnological traditions in Japan are picked up mainly from the complete works of Kunio YANAGIDA. The data on stones are compiled and presented by a table.

(in Japanese)

KEY WORDS: Kunio YANAGIDA, literature, name of stone

Department of Geology, Tokyo Gakugei University, Koganei-shi, Tokyo 184, Japan

1. はじめに

人類はその誕生から岩石と深い関わりをもって進化してきたことは疑いのない事実である、すなわち、岩石を生活の上での道具—石器など—として用いていたのは僅か数千年前のことである。今日まで、ピラミッドや城壁などの石垣、建築物などに岩石の性質を巧みに利用した例が残されている。また、石灰岩を加工したセメントは現在の高層建築には不可欠なものであることは周知の事実である。岩石の石材としての需要は未来まで衰えることはないと言ってよい。

では、岩石は石器や石材としてのみ用いられてきたかと言うと、必ずしもそうではないことは明白である。例えば、神跡考、燕石考（南方全集，1991）に記されているように、神仏や偉人・賢人にまつわる岩石や尋常を越えて手形・足跡などが残されている岩石などを人々は信仰の対象として古来よりあがめ、言い伝えてきたのである。一方、東洋医学において薬石としても用いられてきた。薬石は別にしても、何故に信仰や伝承の対象として岩石が利用されてきたかは理解される。いわゆる伝説、言い伝えなどの証拠には、樹木などと違い、場所や時の変化が少なく、長期にわたってそのまま存在しているという意味で岩石は後々の人々のためにより目印となるためと言われている。

* 東京学芸大学（184 東京都小金井市貫井北町4-1-1）

天然物にしる人工物にしる、その岩石にまつわる言い伝えは今日まで累々と受け継がれ、語り継がれてきていることは事実である。しかし、今日のハイテク社会において、そのような言い伝え・伝説の類いは忙しい日々を送っている次代を担う若者達には余り伝わっていないように思われる。

岩石にまつわる言い伝えや伝説を研究するならば民俗学の領域であるが、言い伝えられている石はどんな岩石か、石碑や石像として彫られた岩石はどんな種類の岩石か、そしてその土地から産する岩石種は何であるか、その土地以外の物は何処から運ばれてきたかなどを結び付ければ立派な地学領域あるいは境界領域の学問分野になる。

今回、私が表題のような資料を提示する事になった経緯は、ある人から何処そこの何々と言う言い伝えのある石はどんな種類の岩石でできているのかとの質問を受けた事があり、類推は出来るにしても見たことがないため、結局は答えられなかった経験をしたからである。要は、民俗学の専門書を読めば良いと思われるが、しかし、その類いの本には伝説・言い伝えそのものは載っていても岩石の種類や何処から運ばれてきたかなどというところまでは記載されていない場合が多いと思われる。そこで、伝説・言い伝えに利用されている岩石はどのような種類のものであるかを調べる事を目的とするが、その手始めとしてここでは、言い伝えや伝説に用いられている岩石や石にはどのような名称が付けられていて、何処に存在するのかを文献より調べることにした。調査結果の一例を資料として載せるが、読者諸氏のそれぞれの土地において調べられた岩石名を添付・お知らせいただければ幸いである。

また、岩石関係の授業をするときの導入として地域の代々言い伝えられてきた話と岩石とを結び付ける事の有用性についても若干ふれる。

2. 調査文献および結果

今回は、民俗学というものを知ることを含めて、主に、柳田国男の著書に石の名を求めてみた。文献は、筑摩書房から出版されている「柳田国男全集」(1～32巻)によった。この全集には引用文献中にあげられている柳田国男の著作が収められており、その中から石の名があげられているものを出来るだけ取り出し、その存在地域や極めて簡単な言われなどをあいうえお順に並べてみた。ただ、文意では述べられていても、はっきりした名や地名が出ていない場合は全てを切り捨てた。記載されている地名も旧名で今の地名とは異なるものもあるが、民俗学ということからするとあえて現行の地名に直す必要もないものと思われ、そのまま記載することにした。さらに、南方熊楠の神跡考や燕石考、折口信夫(折口信夫全集15, 16巻, 中公文書)の著作なども参考にしたが、ここでは、主に、日本で言い伝えられている岩石をとりあげている。調査結果は引用文献の後に一覧表で示す。

3. 考察

私が学生の頃、講義で、八俣の大蛇伝説を科学的に考察した例のあることを聞いた記憶がある。結論は、物語の背景になっている地域には、鉄鉱物を多く含む岩石が存在し、その風化・変質により、川底に鉄錆がついて赤茶けたものを大蛇の血に見立てたものであるとのことであつた。しかし、このような科学的な考察が正しかったにせよ、当時の人々の感性の豊かさ、想像力の豊かさを考えるうえでどれほどの意味があるかは疑問であるとのことであつたように記憶する。しかるに、民俗学上の石が地質学的、岩石学的に云々されることは余り意味があるとは思えないが、人々が岩石の性質を巧みに利用し、どこからどの様に運搬をし、どの様なもので細工をしたかなどを考え合わせる事は、むしろ境界領域的

な分野であり、興味があると思われる。たとえば、「古事記」に載っている、イザナギノミコトが、黄泉の国に行ったイザナミノミコトを見舞いに行ったおり、追いかけて黄泉の国から逃げてくるときに現実の国との境に「千引きの岩」なる巨石を置いて、その追跡を振り切った旨の話がある。千人で引くと大岩はどのような岩石を考えれば良いのであろうか。そのような巨石になるのは限られた岩石であろうと思われる。それは、百万貫岩と言われるようなチャートとか、寝覚めの床で見られるような方状節理をもつ花崗岩とか、砕けやすい石灰岩とかはたまた、一つの溶岩ドームとか考えられる。これらの岩石は、物語のできた背景と地質学的な岩石の分布とを考え合わせて検討すれば良いと思われる。

また、今回とりあげた石、岩の他に伝承されている石などについては、日本伝説体系にその名称、伝承地がそのいわれと共に載っている一千葉石、(あまんじゃくの)重ね石、聖石、雨乞石そのほか多数。さらには、浸食等により形成された形から、ローソク岩、象岩、天狗岩などの名称も各地にある。天然記念物としても、畳岩、帆柱岩、虫喰岩、ひき岩、鏡岩、火打石、鈴石、車石、材木岩、算盤玉石、神戸岩、的岩、岩鼻、鬼岩、傘岩、馬背岩などの名の付いたものがあげられる。

一方、児童・生徒は、自分の住んでいる地域にまつわる伝説・言い伝えなどと言うものに以外と興味を示すものである。そのような意味から、児童・生徒に馴染みの薄い岩石関係のことを教えるには、その地域で言い伝えられていることとそれにまつわる石とを関連づけることで、人類が岩石を石器や石材としてばかりでなく精神的な面においても巧みに利用してきたかを理解させる事にもなり、授業の導入としては十分に使えるものと思われる。今回の資料を叩き代として、読者・先生諸氏独自のものをお作りになられたら良いと思っている。

4. 引用文献

折口信夫：折口信夫全集15, 16巻(1991), 折口博士記念古代研究所編, 中央公論社

南方熊楠：神跡考, 271-288, 燕石考, 289-310, 南方熊楠選集6(1991), 平凡社

柳田国男：柳田国男全集1～32巻(1989), 筑摩書房

- 1 (海上の道, 海南小記, 島の人生, 海女部史のエチュウド)
- 2 (雪国の春, 秋風帖, 東国古道記, 豆の葉と太陽, 旅中小景, 丹波市記, 樺太紀行, 遊海島記, 海上文化)
- 3 (水曜手帖, 北国紀行, 五十年前の伊豆日記, 瑞西日記, ジュネーブの思い出, 菅原真澄)
- 4 (遠野物語, 山の人生, 史料としての伝説, 山人外伝資料, 山神とオコゼ, 木地屋物語, 山立と山臥, 「イタカ」及び「サンカ」, 所謂特殊部落ノ種類)
- 5 (後狩詞記, 山島民譚集(一), (二), (三), 掛神の信仰について, 勝善神, 猿廻しの話, 絵馬と馬, 板絵沿革, 山民の生活)
- 6 (妖怪談義, 一目小僧その他, おとら狐の話, 片目の魚)
- 7 (伝説, 木思石語, 神を助けた話, 生石伝説, 夜泣石の話, 矢立杉の話, 曾我兄弟の墳墓, 地藏殿の苗字, 水引地藏, 廻り地藏, 子安地藏, 黒地藏白地藏, 西行橋, 細語の橋, 橋の名と伝説, 片葉蘆考, 諸国の片葉の蘆, 伝説の系統及び分類, 伝説とその蒐集, 伝説のこと)
- 8 (口承文芸史考, 昔話と文学, 昔話覚書)
- 9 (物語と語り物, 笑の本願, 不孝なる芸術, 東北文学の研究, 世間話の研究, 御伽噺と伽, 童話小考, 昔話をする人に, 昔話のこと)

- 10 (桃太郎の誕生, 女性と民間伝承, 竜王と水の神)
- 11 (妹の力, 巫女考, 毛坊主考, 俗聖沿革史, 立山中語考, 一言主考, 鬼の子孫, 唱門師の話, 俗山伏, 桂女由来記)
- 12 (婚姻の話, 家閑談, 農村家族制度と習慣, 親方子方, 常民婚姻史料, 葬制の沿革について, 葬制沿革史料)
- 13 (先祖の話, 日本の祭, 神道と民俗学, 祭礼と世間, 神道私見, 神社のこと, 人を神に祀る風習, 忌と物忌の話, 魂の行くえ, 大嘗祭ニ関スル所感)
- 14 (神樹篇, 祭日考, 山宮考, 氏神と氏子)
- 15 (石神問答, 大白神考, みさき神考, 田社考大要, 塚と森の話, 十三塚, 境を塚に築く風習, 七塚考, 耳塚の由来について, 民俗学上における塚の価値)
- 16 (年中行事覚書, 新たなる太陽, 月曜通信, 行器考, 苗忌竹の話, 御刀代田考, 家の神の問題, 浜弓考, 神送りと人形)
- 17 (木綿以前の事, 食物と心臓, 手拭沿革民間些事, 稗の未来, 米櫃と糧と菜, 親の膳, 小豆の話, 塩雑談)
- 18 (民謡覚書, 民謡の今と昔, 踊の今と昔, 獅子舞考, 掛け踊, 風流と我面目, 郷土舞踊の意義, 仮面に関する一二の所見, 田植のはなし)
- 19 (蝸牛考, 西は何方, 毎日の言葉)
- 20 (地名の研究, 風位考, 大唐田または唐千田という地名, アテヌキという地名, 和州地名談, 水海道古称, 名字の話, 家の話, 垣内の話, 食料名彙)
- 21 (方言覚書, 国語史, 新語篇, 標準語と方言, 国語史論)
- 22 (国語の将来, 方言と昔, 小さき者の声, 少年と国語, 喜談日録, 幼言葉分類の試み, 村荘閑話)
- 23 (こども風土記, なぞとことわざ, 火の昔, 村と学童, 村のすがた)
- 24 (野草雑記, 野鳥雑記, 信州随筆, 狐猿随筆, 「黒」を憶う, 狸とデモノロジー, 狸とムジナ)
- 25 (日本の昔話, 日本の伝説, 俳諧評釈, 俳諧評釈統篇)
- 26 (明治大正史, 世相篇, 国史と民俗学, 現代科学ということ, 社会科教育と民間伝承, 歴史教育について, 民俗学研究所の成立ち, 民俗学研究所の事業について, 日本を知るために)
- 27 (郷土誌論, 青年と学問, 北小浦民俗誌, 「郷土研究」の休刊, 東北と郷土研究, 郷土科学について, 実験の史学, 平凡と非凡, 比較民俗学の問題)
- 28 (郷土生活の研究法, 民間伝承論, 女性生活史, 文化運搬の問題, 文化と民俗学)
- 29 (時代ト農政, 日本農民史, 都市と農村, 生活組合の性質について, 中農養成策, 農民史研究の一部, 農村雑話, 行商と農村)
- 30 (最新産業組合通解, 日本産銅史略, 農政学, 農業政策学, 農業政策)
- 31 (退読書歴, 老読書歴, ささやかなる昔, 幽冥談, 乱読の癖)
- 32 (初期文学作品一野辺のゆきき, 野辺の小草, 拾遺詩篇, 短歌, 散文一, 炭焼日記)

あ

青石

北埼玉郡荒木村小見，秩父（板碑など）

赤石

備後鞆町狐崎法成寺（夜泣石）

鰐掛石

足跡石

壱岐住吉村住吉神社，岩代竹駒（義経のもの），近江蒲生郡奥山村牧，近江飛鹿，近江甲賀群鮎川村鮎川一同郡山内村黒川の間，尾張知多郡内海村，紀伊（犬のもの），京清水寺，上野妙義山（百合若大臣が矢を射た時のもの），相模中郡七沢村大竹，薩摩出水郡阿久根村波留，信州高遠，周防熊毛郡大野村風呂木，長州豊浦郡滝部村中原一つ石，土浦左の殿里，土佐高岡郡仁井田村，尾州登々川，飛驒岸奥村嫁が淵，備後蘆品郡服部村雨木（赤子のもの），和歌山城壁

足形石

足摺石

咸陽（役行者のもの）

遊び石

伊予長尾（大人の遊び石）

天の岩戸岩

周防熊毛郡岩田村宮戸

天の磐戸

淡路三原郡加茂村（または下内膳村）内膳先山（椀貸伝説）

雨降石

越後南蒲原郡大崎村上保内木戸家（重軽の石一力石）

い

五十日子石

羽後仙北郡峰吉川村根岸（ニカゴ石一泣き石）

生石

（君が代一石成長），和州金峯山竜泉寺（一おいとしぼ），備後今田村

石芋

（弘法大師に食べさせなかった罪）

石敢当

（人家の表口または石垣の角に建てた）

石鈴

（振れば鳴る音のする石，ナル石），那留が野

石枕

岩代北会津（石の枕に槌一つ一旅人を石の枕に寝かせて打ち殺す），東京浅草寺（沙渴羅竜王の化けた姥が磐居と磐融との二つの石で旅人の頭をひしぎ殺す一姥石と名づく），播州姫路（人を殺す一人を葬るのに石の枕をさす），尾州石枕の里（枕の下に石を置き槌を持って首を砕く）

出雲石

安芸中野村（出雲から持ってきた石が成長）

動石

因幡箭溪（山姥のもの）

伊勢石

（伊勢の神）

犬石

備前犬島（菅原天神の飼犬）

犬岩

耶麻溪

射抜石

上野妙義山（百合若大臣の射たもの）

犬子石

羽後赤神山（巫女犬を連れて山へ入る。巫女化してイタク杉に犬は石になる）

亥の子石

瀬戸内海地方

五百個磐石

（天安河にある500の岩，中には金属の原鉱も含まれる）

岩神

近江上山一水口

岩船

乙村石船神社

印石

紀州伊都群見好村三谷権兵衛坂（一釜岩，鉾岩）

陰石

（陰陽石の陰）甲州駒ヶ岳（一馬蹄石）

う

魚石	長崎（青い石、石の中より赤い鮒が出る）
魚が石	備後吉原村（備後世羅郡吉川村吉原と神田村蔵宗の間の魚が池の大きな石）
伺い石	阿波瀬戸堂の浦阿波井大明神（一占い石、重軽の石）、大磯（一虎が石）
宇佐石	
牛石	東京小石川牛天神、日光中禅寺不動坂（男体山、女人禁制故牛に乗り行くが石に化す）
	東宇和島郡中川村阪戸、諸国にある
碓石	播州姫路（鉾石の類一清正、城の石垣を築くが崩れる、老婆碓を置くと崩れず城壁できる）、美作 苫田郡西苫田村小原市場（一鉾石一世に反乱あれば祭りす）
臼祖母石	駿河志太郡藤枝村瀬戸新屋（人の口を開けた格好）
姥撻石	尾張知多郡内海村（義朝だまし討にあう。従者戻り老婆に問うが殺されたとのこと。姥を鞭打ち、石と化す）
産石	宇和島（産飯の膳の上に乗せる）
馬石	越後北蒲原郡加治村茗荷谷、越前西頸城郡今井村（義経の馬ここに至って石に化す）、肥前西蒲原 郡大川村（鎮西八郎大蛇を退治、鱗を馬に積む、馬石に化す）
海石	小田原、三河伊良湖崎
禹余糧	（鳴石一葉石）
占い石	（伺い石）
瓜生石	祇園栗田口知恩院（一降臨石一祇園大王の座禅石）

え

嬰石	燕山（帯模様の石）
烏帽子岩	諸国にある
燕石	（瑪瑙、燕の体内や巣にある石一眼の薬、眼石、嬰石、驚石やタロホーレンという石一天然磁石 か、癩癧、頭痛、解熱、肝臓病に効く）

お

甥石	更科郡羽尾村
笈掛石	
お石	土佐黒岩村
おいとしぼ石	吉野金峰山洞川村竜泉寺（踏み付けると重く、撫でると軽い）、和州大峰口竜泉寺（一生石）
御犬石	（諸国の山村にある御犬が子を育てる場所）
おうむ石	伊豆丹那村（椀貸伝説）、伊勢渡会郡市瀬（椀貸伝説）、伊勢宮川の上流上駒が野村（椀貸伝説）、 越前敦賀常宮浦（椀貸伝説）、江州蒲生郡（椀貸伝説）、志摩磯部村恵利原（椀貸伝説）、三河渥美 半島福江町山田、武蔵御岳（椀貸伝説）
大姥石	磐城館山村
大人跡石	備後沼隈郡高須村
御神楽置石	大和宇陀郡榛原町雨師（神武天皇）
おがり石	羽後仙北郡旭の滝不動堂
大黒石	南河内駒が谷村大黒

芋桶石	岐阜市上加納瑞竜寺
箴石	戸隠裾花川
押場石	高野山
爺石	陸中一関山の目村
おしおい石	島根の海岸
御机石	伊予の海上
おっぱしょ石	阿波徳島市街（一おんぶ石、ウバリオン、パウロ石）
男石	伊勢船戸村（伊勢の神様が投げた石一小石を投げてこの石に当たれば男が生まれると占う）
鬼石	大江山、甲州西八代郡市川大門、丹後与謝郡河守町河守、八瀬鬼が淵
鬼の雪隠	（飛鳥時代、花崗岩）
伯母石	安芸水内川
姥石	浅草妙音院付近のもの、会津磨上新田（ある時代に毎晩女に化けた歩いた）、安芸水内川、磐城阿武隈川、岩代耶麻郡川西村磨土新田（毎晩女に化けた）、羽前中島村熊野神社（那智の浜から拾った石が成長し、子を産んだ）、越中立山（止字呂の尼、結界破り）、加賀白山（融の尼結界破り）、北巨摩郡若神子大石神社、岐阜上加納瑞竜寺（姥の坐したる姿）、信州姥捨山更科（姥の結界破り）、多野郡三波川、千葉君津郡関村（小児の咳の願掛け一木場石、御場石）、津軽岩木山（安寿姫の姥、結界破る）、日光街道榎の木大師が滝、飯能上直竹村（浅間社、女人禁制破り）姫路（清正、石垣を積んでも崩れる。老婆来て臼のごとき石一つ置くと崩れない）、備後双三郡川西村三若（一米喰石）、富士の裾野（曾我兄弟）、武州金沢弥名寺、武州神流川（鬼が重くて運ぶのを止めた）、横浜釜檀山、美濃養老郡大墳村莊福寺（昔、石の肌が常人のごとく暖か）、陸前気仙五葉山（老婆、女人禁制破り）陸中磐井川、陸中一関山の目村
姥が石	老岐立石村（鯨伏村立石潟長江）、讃岐石田村
御百度石	（鳥居の脇）
親石	信州埴科郡玉依比売命神社
親縛り石	（親が病気になる）
降石	
御飯石	伊賀那賀郡神戸村古郡（一福石）
御場石	君津郡関村（小場石一姥石）
温石	
陰陽石	（奥州から九州に多い）
か	
鏡岩	北紙屋川、京金閣寺、甲州中巨摩郡蘆安通組伊豆神社（虎女の鏡岩）、信濃東筑摩郡洗馬村本洗馬
かがり岩	下伊那郡上久堅村神峯城跡（白米を水のように見せて流した。敵に水があることを知らしむ）
かくま石	村岡村三谷（杉皮葺きの屋根に乘せる偏平な石）
隠れ岩	西多摩郡檜原村中里組千足
かご岩	下野鬼怒川上流
笠岩	（灯籠の笠岩）
春日石	洛北八幡
火鉄石	朝鮮慶尚右道河東県理盲站

稜石	(燧石)
カナ石	相州江ノ島
要石	鹿島(耳を当てれば波の音、船漕ぐ人の声が聞こえる)
鉄漿付石	播州網千町(一明神石)、豊後姫島
カハゴ石	(革籠石の正式名称)
鎌倉石	信州佐久安養寺(石成長)
釜檀の石	武蔵都筑郡西谷村上星川(富士への狩りに茶をたてた)
神石	会津若松城内鎮守諏訪明神、阿蘇郡永水村乙姫、種子島熊野浦(石成長)、土佐香美郡山北の社 (京の神楽岡の石が成長した)、常陸大洗磯崎前(水沢に天降る)
神小石	日光中禅寺
神像石	常陸大洗磯前
亀石	肥前田島神社
甕石	薩摩出水郡大川内村角石岡
唐船岩	肥後鹿本郡川辺村椿井
枯れ石	
河子石	備前吉備郡川辺村一(河童岩)
皮張石	紀伊伊都郡川張村(丹生狩場明神のもの一分塚の標一枝の松)
眼石	(アイストーン、眼に入ったごみを除くために使う一貝類のような石)
勸請石	(一影向石)
甲高石	備後深安郡法成寺村法成寺(除夜に鶏の声をして鳴く)
観音石	長門大津郡深川村江良、日向飯野郷
冠石	若狭遠敷郡宮川村加茂大戸と野木村上野木の猿陪淵の底の小石(雨乞い一小石を抱けば験あり) (明神の冠石)
き	
菊明石	八重山(石の門を作る)
衣掛岩	(羽衣伝説が何時の間にか弘法大師と入れ替わっている)
鬼面石	甲州郡内広里村三島神社(石占)
牛王石	石見吉賀注連川村(石成長)
経石	
行道岩	肥後八代郡上松求麻村餅瀬(椀貸伝説)
行場石	長門美禰郡真長田村真名(一八疊石)
教良石	(一教来石) 甲州の地名(霊石)
金鶏石	岩代耶麻郡磐梯村西連(金鶏、この石の上で鳴き良金あるを知らせる)
巾着石	下総千葉郡二宮村上飯山満(石成長)、土佐高岡郡黒岩村御石北
く	
久来石	(村名の起源たる霊石があった)
括岩	武州西多摩郡明治村入野樽沢
楠石	(岩楠船)

クダミ石	南島（沖縄？）
沓石	足柄下郡曾我谷津村下庭（曾我五郎の足跡），岩代竹駒（義経のもの），因幡（武内）
沓掛石	
沓形石	長谷寺（天照大神の影向の石，左に天児屋命の石）
首岩	肥後山鹿久原村（彦岳権現と蒲生の不動岩との首引きで不動は負けた）
熊野石	熊野権現
鞍石	信州小県郡西塩田村（鞍岩），武州西多摩郡小宮村乙津熊野神社
久留石	（村名の起源たる霊石があった）
黒岩	渡島江差町，播磨明石即ち大久保村西脇黒石大明神の神体（石成長）
け	
鶏冠石	（薬石）
傾城石	
こ	
乞丐岩	諸国
子石	信州埴科郡玉依比売神社，陸前宮城郡根白村小角飯石明神社
こうご石	（河童の故郷一革籠石，香合石，皇后石），筑前糸島郡電山村（神籠石一香合石），備後御調郡早津戸村下山（香合石一里中に異変のある時は，その前に声を発する），諸国
乞子石	日光街道
高座石	信州一信濃の国境の下鷲木敬寛院（日蓮上人一転げ石）
子売石	伊勢多気郡疋田村脇田（一名付石，子得岩）
降臨石	大隅肝属郡佐多村御崎山（オウゴの瀬，権現誕生の地），鎌倉鶴ヶ岡八幡社頭（竜神のもの），城州葛野郡松尾村下山田（松尾明神），山城加茂郡御生野（瓜生石，祇園大王）
小姥石	磐城館山村
御供石	玖珂郡柱野村杉森大明神
五穀石	西多摩郡田中村作目（一五穀岩），若狭大飯郡内浦音海
五穀岩	西多摩郡田中村作目
御坐石	
腰掛石	阿波美馬郡江原村大日浦（崇徳天皇と源為朝親子のもの），岩代大沼郡三谷村石神峠，奥州平泉（義経のもの），沖縄本島波上宮（日秀上人一対面石），鹿児島日置郡伊作村花熟里，関東・東北に多い，京都西国院（ぬえのもの），江州石山寺（僧歴海），江州醒井の里（大和武尊），上州高崎赤坂町（弘法大師，大和武尊），瀬戸内の島（弘法大師，天神様），能登本郷村（釈泰澄），東田川郡広瀬村（石に寄進した人の名を刻む），尾州熱田海蔵門（弘法大師），日向西諸県郡高原村蒲牟田，児湯郡美々津町，児湯郡都農村（一俵石），美作英田郡河会村横河（天石門別命を案内した狛師のもの），山城乙訓郡大山崎村（菅原道真），陸前名取郡生出村茂庭，洛東粟田口（神武天皇のもの）
子得岩	伊勢多気郡疋田村脇田（一子売岩，名付岩）
答え石	備後安芸水村
子種石	（一蚕種石）（石誕生伝説）

木魂石	更科姥捨山
小太郎岩	飛驒益川小阪の小太郎
児玉石	信州埴科郡玉依比売命神社（子石の数と形で朴す。正月に石占す）、松代領磯並三社大明神
蠶玉石	
言葉石	備後安芸山村
木の葉石	（化石）
護法石	岡山久米郡吉岡村定宗江岩間の本山寺と大塚和の両山寺
護摩石	岩代耶麻郡小沼村大塩（大師の手形）
駒石	伊豆、越後西頸城郡今井村（義経の馬）、軽井沢、江州石馬、駒ヶ岳、遠江駒形浜、箱根駒形、東山梨郡松里村、飛驒大野郡清見村
駒飼石	東八代郡日影村駒飼宿
駒（が）岩	榛原郡御前崎御前岩、播磨神崎郡田原村西田原、播州市川（氏神が飛んできて蹄の跡を残す）
駒形石	会津金川村、耶麻郡駒形村金川、北巨摩郡穴山村黒駒
コソコソ岩	備前御津郡円城寺
駒が爪岩	美作英田郡大野村川上
駒留石	下野上都賀郡東大草村引田（一馬蹄石）、陸中盛岡東見寺
米嚙石	土佐郡十六村成山、備後双三郡川西村三若（一米喰石、獅子岩、姥石）、美濃可児郡久々利村久々利（石の上に米を置くと直ぐになくなる。石が食べる）、可児郡上の郷村次月（一米嚙石）
子持石	（賽の河原の地藏尊の発想）（石が石を産む）
転げ石	（日蓮上人一高座石）
子安石	
さ	
逆岩	南会津森戸村
酒船石	（飛鳥時代、花崗岩に刻まれている）
佐久神石	
さざれ石	（石成長）
さし石	広い地域
座禅石	飛驒大野郡宮村大幢寺（開山和尚）、山城広沢池（観賢僧郡）、洛北粟田口（一瓜生石）
鯖腐石	備前長崎辺（魚商人が岩の下を通りかねて鯖を腐らす）
猿石	（飛鳥時代、花崗岩に刻む）
猿の腰掛け	作州英田郡江見村川北の立石
猿田彦石	伊勢東二見村
猿田姫石	伊勢東二見村
蚕種石	（一子種石）、（石誕生伝説）
三升出石	三重伊賀島ヶ原駅辺
し	
塩売り石	東京小石川の牛天神（願掛け、遠路の旅人が集う、情報源）

塩斎石	長門、石見地方（一お塩斎石）
鹿飛の岩	近江（弁慶の足跡）
獅子岩	備後双三郡川西村三若（一米喰石）
爺石	関東の道祖神（姥石と並んでいる）
七難石	越前平泉寺、美濃根尾川（能郷白山）
死に石	
信濃石	秩父小鹿野町（耳を当てれば人の声をする）
信夫文字摺石	福島信夫山
舍利石	津軽卒土が浜（石成長）
蛇冠石	片平村
杓子岩	（杓子に似た石）、作州箱村箱神社（源頼光、大江山より黄金の杓子を取り、それを埋める一岩が現れた）
じゃんこ石	渡良三島、長島の御神体地石
錫杖石	摂津箕面山（役行者）泉州巻尾山（行満上人）
釣竜石	朝鮮扶余（白馬を餌に竜を釣る）
尉石	（山姥と相對）
じょうば石	内地（一降臨石）
じょうべ石	信州北安曇各村（一踏段石）
尻掛石	醍醐三宝院
次郎石	羽前中島村熊野神社（姥石から産まれた）
しわぶき婆の石	川越喜多町広済寺（しわぶきばの塔）（しわぶきは咳のこと）、甲州中巨摩郡八田、三角石（風邪を引いた子の親が祈願）
神跡石	上野榛名山榛名神社
神足石	伊勢五十鈴川の川上から取れた馬蹄形の小石
す	
双六石	（河童の妙薬）
捨石	乞田の八幡社、吉祥院（寺領捨石の御朱印）
住吉岩	洛北八瀬（一住吉石、祭石）
寸倍石	播磨加古郡野口（一投げ石）
せ	
背競べ石	（牛若の背競べ石一はかり石信仰）
石燕	（化石、陣痛を和らげる、眼病、頭痛など万薬、痔と下痢にも効く）
銭神石	安芸加茂郡郷原村野路山（除夜に黄金の鶏が来て鳴く）
銭瓶石	甲州東山梨郡西保村牧平組（西八代郡西川へ運ぶ）（銭を埋めた処）
千石石	肥前藤津郡能古見村本城（一千石岩）（白米で馬を洗う一敵に水の存在を知らした）
膳棚石	岩代南会津群大川村大原

そ

象頭岩

阿波勝浦郡生比奈村星谷

卒都婆石

日向飯野郡狗留孫山

祖母石

甲州北巨摩郡祖母石村 (老女が頭を支えて座った形)

ソロバン石

那留が野より産する玉髓

た

対角石

八瀬鬼が洞 (一鬼石)

太鼓石

甲斐北都留郡巖村四万津組 (村に異変のある時は太鼓のごとき音を発する)

大黒石

南河内駒が谷村大黒

大師石

上州高崎赤坂町

太帝石

大日石

岩代岩瀬郡鏡石村成田

対面石

羽前山寺の立石寺 (慈覚大師と山王権現の対面), 沖縄本島波上宮 (一腰掛石)

竹繰岩

(滝繰岩), 但馬城崎付近の玄武洞

立石

因幡山奥栗谷麻尼, 土佐香美郡上韭生村柳瀬 (ダイドウハウシの落としたもの), 南会津森戸村 (赤子の立石) (岩下の部落には逆岩)

七夕岩

飛驒 (7月7日をもって年占をする)

玉石

(舞々), 野州葛生の小藤神社 (一泣き石)

試し石

東京池袋天神様 (重軽の石)

袂石

熊野大井谷 (一福島石), 土佐津大村と伊予目黒村境 (おんじの袂石), 三重宇治山田市船江町菅原社 (播州袖ヶ浦で拾ったさざれ石が大きくなったもの)

太郎石

羽前中島村熊野神社 (姥石から産まれた)

俵石

日向児湯郡都農村 (一腰掛石)

団子石

ち

力石

(一虎が石), 徳島南海地方 (一産石, 産飯の膳の上に載せる), (弁慶の力石)

膝石

戸隠裾花川

児石

武州多野郡三波川村, 山城広沢の池 (観賢僧郡の座禅石一下の平らな小さい石をいう)

父石

陸前宮城郡根白村角飯石明神社 (父石, 母石から子石が産まれる)

銚子の石

(山より突き出せる岩石, 阿弥陀の滝一竜神伝説)

千引き岩

(黄泉の国と現世とを閉ざす石扉, 岩の名を道反大神という) 一今の伊賦夜坂のこと

手洗石

千方の飛石

伊賀名賀郡比奈知村滝原高座山 (馬蹄石)

鎮懐石

藤本辺 (神功皇后, 衣裳の腰の処に結わえた), 筑紫の伊斗村 (海上子負の原にあったという, 万葉集のものは極めて大きい)

つ

杖石

杖立石

続石	綾織村にある大岩
礫石	(弁慶の礫石一はかり石信仰), (天狗の大礫), 伊勢柳田川 (石占一旅人に小石を投げて当たれば男子誕生)
爪石	阿波郡林村西林岩津 (一馬蹄石), 美作苫田郡神庭村草加部 (一竜が爪淵)
弦掛石	佐賀東松浦郡北波多村 (魚商人が大岩を通りかねて鯖を腐らせる)
て	
手掛石	江州伊吹村寺が岳 (結界破りの尼苦悩の余り, この岩に手を掛けた一指跡)
手形石	高野山花坂 (弘法大師)
掌石	長谷寺 (太玉命の座した処)
天狗岩	岩代南会津郡大宮村大新田 (石成長)
天馬石	阿波 (池月, 阿波の海岸に降りて石と化す)
と	
砥石	
道祖神石	甲州に限らず諸国にある
十勝石	旭川
戸立石	美濃武儀郡宮野村西神野 (この空間に神女住み, 椀を貸す)
飛石	武州金沢九覧亭 (一影向石)
止の駒石	山城井手玉川山雨吹竜王社
虎石	磐城刈田郡齊川村向上, 京虎石町法泉寺, 建仁寺 (一名徳石), 箱根 (曾我兄弟の墓の辺一小川の中にある石を洗って祈願すれば病気が治る, 墓の傍らにある石を洗えば病が治る)
虎が石	岩代信夫郡岡山村山口, 大磯宿河原 (美男には軽く醜い男には重い一力石の一種), 大隅嚙咄郡東志布志村志布志大慈寺, 信州上水内郡古里村駒沢 (一虎御前石), 谷中延台寺 (一身代わり石), 大和吉野 (静御前の所縁の石一氣にいるいらぬで上がる上がらない)
虎子石	近江の虎姫山, 相州大磯延台寺 (一伺い石), 武州北足立郡春岡村深作
虎御前石	信州上水内郡古里村駒沢 (一虎石, 雨乞い祈願に験あり), 善光寺, 箱根曾我兄弟の墓
鶏石	京一近江の逢坂山 (世の中が乱れんとすると石の中に鶏の声を聞く), 下野一常陸の鶏足山 (紅葉山), 筑前糟屋郡香椎村香椎の浜 (作物を荒らすので, 旅の僧歌を読むと石に化す, 肥後葦北郡水俣村浜 (石工が砕こうとすると鶏が現れて天に登る)
な	
那智黒	熊野 (石成長)
名付石	伊勢多気郡四疋田村脇内 (一子売岩, 子得岩)
ナバ石	奄美大島 (一珊瑚岩)
浪石	因幡甲賀群岩根村菩提寺 (石の配列を以て境神の祭りとす)
滑石	肥前滑川村
鳴石	(石鈴のこと, 那留石?), 飛驒高原郷
縄目石	美作苫田郡内海村, 同郡香々美中村 (妬み深い婦人が石になる, 触れると祟りあり)

に

ニカゴ石
握飯石
女房石

羽後仙北郡峰吉川村根岸（一五十日子石）
耶馬溪
武州多野郡三波川村

ぬ

布晒し岩
布曝し岩

備後の岡三淵（山姥の布晒し岩一オカミとは大蛇のこと）
越前吉田郡浄法寺山（山姥の布曝し岩）

ね

寝覚の床
戻石
捻石

木曾
越後西蒲原郡国上村（西行の戻石—この地で休んだ）
高野山登山路（息子に会いに来た大師の母が許されず、この石を捻って悔しがった）

は

ばい岩
バウロ岩
はかり石
箱石
馬降石
馬乗石
馬足石
機織石
旗立石
バタバタ石
鉢石
八畳石
馬蹄石

飛驒の瀬戸村（倍岩）
（ウバリオン、オッパショ石、おんぶ石）
（重軽様、石占一力石となる—信仰が途絶えると弁慶の礫石、牛若の背競べ石などとなる）
陸中傀儡坂
箱根駒権現（一馬蹄石）（石穴の水は硯の水の伝説）
箱根駒権現（一馬蹄石）、播磨宍粟郡神戸村須行名
駿河安倍川（一硯石）
戸隠裾花川
紀伊伊都郡友淵庄清川村（将軍など）、備後蘆品郡広谷村本山
（タタミタタキ）

長門美禰郡真長田村真名（天狗の行場石）

阿波美馬郡端山村西端山馬が岡、阿波郡土成村土成、阿波郡林村西林、出雲八束郡美保関村雲津、石見那賀郡石見村長沢、越前吉田郡岡保村大畑蹄の滝、奥州外南部宇曾利山、尾張東春日井郡坂下村内津（日本武尊の馬の足跡）、上総夷隅郡布施村硯、河内南河内郡駒谷村金剛輪寺、北都留郡初狩村下初狩組、甲州駒ヶ岳、上野榛名山、下野上都賀郡東大葦村引田、駿河田上、駿河薬品川、駿河安部郡大里村川辺、摂津川辺郡長尾村仲山寺、相州足柄上郡岡本駒形、相州足柄下郡江浦村、筑前竈門神社、秩父吾野村坂本、秩父吉野の子権現、津軽三厩、対馬仁田村飼所、土佐国方、長岡郡岡豊村滝本毘沙門堂、長門阿武郡宇田郷村惣郷、能登珠洲郡三崎、箱根駒権現、箱根三枚橋付近、播磨斑鳩寺、播磨神崎郡田原村西田原、東山梨郡等々力村万福寺（太子の憩ったもの）、同加納岩村上下石森組、同松里村松里、飛驒大野郡清見村滝の峰峠、日向鶴戸浜、武州西多摩郡小宮村乙津、武州西多摩郡檜原村千足、房州犬吠崎、美作真鍋山長法寺、美作久米郡福岡村横山、美作苦田郡堀坂（一竜が爪）、武蔵北足立郡平方村平方、陸奥十和田湖辺、陸前本吉郡唐桑村唐桑、和州茅野吉水院、

鼻線石

安芸か備後（両乞石）

母石	陸前宮城郡根白村小角飯石明神社
婆石	城州高崎赤坂町（しょうずかのばば石）（大師石の近くにある一咳の祈願）
波留の大石	薩摩阿久根の七不思議
伴三岩	出羽
半年石	妙義山
磐司岩	羽前一陸前の二国峠
番持ち石	（力石）北陸地方（一バンブチ）
バンブチ	北陸地方（一番持ち石）
ひ	
火石	（火山の石？），太宰管内志
燧石	
燧岩	松本俄村（デエグラボッチの火打ち石）
光石	土佐香美郡上韭生村柳瀬（ダイドウホウシの落としたもの）
比丘尼石	戸隠鳥居川（山）（尼，結界破り），信州更科郡羽尾村冠著山姨捨山（これより先女人禁制）
美女石	武州金沢弥名寺，加賀白山
梭石	戸隠裾花川（一箴石，膝石）
平石	（鬼が島の入り口）
ふ	
福石	（不忍弁天の已成金または相州江ノ島の福石の前で金を拾える幸あり）
福島石	熊野大井谷（一袂石）
富士石	遠江磐田郡下阿多古村石神大社の神体（富士山から持ってきた小石が成長）
藤戸石	醍醐三宝院（一尻掛石）
仏足石	大和薬師寺のものが最も古い，大和の雲雀山，山城梅尾春日明神，美濃谷汲観音
降り石	土佐香美郡上韭生村柳瀬（ダイドウホウシの落としたもの）
古津石	濃州神野山，岐阜稲葉郡長良村古津（椀貸し洞一椀貸伝説）
仏具岩	泉州槇尾山
へ	
鞭松石	筑後三潆郡大善寺村夜明（栄尊の鞭が根付き，枯れ後の碑あり）
ほ	
ホイホイ石	（おうむ石），南津軽郡相沢村（椀貸伝説）
宝蔵石	加賀白山
望夫石	（夫役に向かう夫を見送りに来てそのまま石になる一貞女の鏡），肥前田島神社
法論石	
鉾石	美作苦田郡西苦田村小原市場（一碓石）（世に反乱あれば祭りをす）
鉾岩	紀州伊都郡見好村三谷禰山の南，権兵衛坂（一印岩）
鉾立石	筑後浮羽郡姫治村新川

ナポリ石

宮城・岩手（一巫女石）

ま

枕石

近江などの村，三州山村，国の端々

孫石

羽前中島村熊野神社（姥石から生まれた）

榊形石

見附の榊形石

町石

愛宕山

祭石

洛北八瀬（一住吉石）

組板石

（飛鳥時代，花崗岩に刻む），丹波表掛峠

万事岩

出羽

み

身代り石

谷中延谷寺（一虎が石，日蓮宗，寺の境内鬼子母神に秘め置く石，青くして成長した）

御子石

鳥取八頭郡国英村片山

皇子石

羽前月山

巫女石

羽前月山，佐渡金北山大権現，荘内金峰山，日光中禅寺不動坂，三河鳳来山，宮城・岩手（ナポリ石）

巫女岩

佐渡金山北権現と真光寺（巫女故結界を破る，行方不明の後岩が現れる）

御輿駐

作州英田郡江見村川北

皇子産石

筑前深江の子負原（神功皇后，三韓征伐の時に袂に入れた石）

水口石

（大い子の水口石）

三声返岩

甲斐金峰山

三石

山城西梅津村梅宮境内（一影向石）

明星石

会津柳津虚空蔵堂（一足跡石）

明神石

播州網千町（一かねつけ石），美作久米郡大井東村宮部（神社は大明神の降現あり，石異光を放つ）

妙徳石

京建仁寺（一虎石）

め

姪石

更科郡羽尾村

女夫石

安房鴨川町，奥州から九州に多い（子持ち石伝説）

女夫岩

（烏帽子岩），羽後神宮寺町（一夫婦岩）

裳掛岩

備後の間口湾

文字摺石

福島文字摺観音堂

物言石

土佐長岡郡本山郷，同郡大坪村穴打

紅葉石

下野一常陸の鶏足山（一鶏石）

守子石

羽後平鹿郡矢沢木保呂羽山（守子結界を破る），日光中禅寺不動坂

両乞石

安芸か備前かの山村（牛の形をし，鼻の部分に網を通して強く引くと雨が降る一グリの石，鼻線石）

や

矢石

薩摩出水郡木牟礼

休石

大和宇陀郡榛原町雨師（神武天皇）

矢立石

矢ため石

丹波表掛峠

矢根石

（黒曜石一大島に無く、近くは秩父）、佐渡（天より降る、2月9日）

矢筈石

（矢祭石）

矢祭石

陸前牡鹿郡石巻町湊（川の岸に小石が多くある所一八幡太郎の軍師、矢を投げ川を祭る。その矢が石となった一矢筈石）

山姥石

阿波半田（山姥が子を連れて、ここで焚火をした一子産乳と言う岩石の地で山姥三児を養う）、遠州奥山郷

山鏡

伊勢山田

ゆ

動石

因幡、箭溪

よ

影向石

鎌倉鶴ヶ岡八幡、江州栗田郡下田上村板の不動寺（天照大神）、同三井寺（三神会合）、同錐醒井の里、讃岐三豊郡財田大野村財田西上村宗運寺（菅公影向の石）、城州葛野郡松尾村下山田西方寺（松尾明神）、武蔵金沢九覧亭（一飛石）（三島明神）、山城西梅津村梅宮境内（一三石）（一勧請石）、山城上醍醐清竜社（祭神の御座）

吉田石

備前吉備郡河辺村（河子岩）

夜泣石

伊賀夙村、越前丹生郡越知山（女人禁制を破り谷の大岩に投げ落とされて死んだ）、越前吉田郡中角光福寺、遠州佐夜中山（殺された女を何の小夜姫と言う。赤子が産まれてその上で泣いた）、近江金勝山（泣石）、下総国府台総寧寺（青色のもの）、土佐梅木村、土佐領家郷、丹波郡小折常観寺（尾張六地藏の一つ）、備後東法成寺村（赤石）、野州葛生小藤神社（一玉石、これも泣く）

ヨバリ石

福島白河小田倉山

呼石

（一おうむ石）、備後・安芸山村（椀貸伝説）

寄石

上総玉前（寄り神として祈る）

ら

雷神石

常陸石那坂（石が成長しすぎて静の明神にけとばされた石のあと）

り

竜馬石

阿波美馬郡端山村西端山馬が岡（神馬の跡）、摂津川辺郡多田村矢間（多田満仲の馬の跡）、川辺郡小田村久々知

竜が岩

信州木曽山口村（椀貸伝説）

霊石

（神の御座、ある可からざる所に発見した石）

ろ

老婆石

陸前気仙郡浜田

わ

ワククリ石

安芸安佐郡深川村中深川 (除夜の晩だけ聞こえる)

驚石

(驚は巣の中にある石を匿しておく)

笑石

(一おうむ石, 枕貸伝説)

藁打石

柴波地方, 奥州

その他の言い伝え

金剛力士の石像の顔が赤くなると島が沈む一悪戯でやったら島が沈んだ（唐土の万重島）
雨乞いには石を倒す（八重山）
石より背が高くなったら人頭税をとる（宮古）一石占の一種
種子島の坂井浦の九間の神社の神体一成長し、子を産む一鹿児島に分霊
鹿児島湾南端山川の港近く一潮水を汲み上げると石も入る。その石が成長する一若宮八幡神社
薩摩の石神一水田村の石神神社を氏神とする御神体一これも成長する
淵の水が半分ほどの深さになると石地藏の御首がでる一雨乞い（肥後田平村釜が淵）
肥後の石神社の石も成長した
肥後飽託郡島崎村石神社の神体も成長した
豊後の元松村の丹波大明神の石も成長した
筑後三潯郡鳥飼村大石の大石神社の神体は成長する
九州阿蘇ではどんな小石でも縁の下に隠しておくと大きくなる
阿波の大滝山と高越山の石合戦で岩倉山に石が落ちて石の多い山となる
阿波の伊島で網に掛かった石を蛙子大明神として祀る一石成長する
土佐高岡郡黒岩村御石北の大石神の石も成長する
千個の石を拾い集める一千度参り（隠岐島）
隠岐島東郷村一石を釣り上げたらそれが成長した
駒の足跡と赤子の足跡一美作久米郡福岡村一その場を「ノゴワズ」と言い、触れれば雨が降る
出雲では飯石神社の後ろの大石も成長した
備後下山守村一宮島帰りに袂に入れた石が成長した
備後今田村の水神社の石も成長した
大師が洞の三つの岩元一酢、酒、醤油の味の水を貯める（若狭大飯郡）
岩戸の開閉の音で晴雨を卜する（福井大野郡下味見村赤谷）
椀貸し伝説（兵庫神崎郡越知谷村、石川河北郡伝燈寺村）
伊勢一大和の境の高見山の峠の大岩の二つ一多武峯と喧嘩し負けたとき、山の頭が飛んだ
伊勢花岡村善覚寺本堂の土台石も成長した
熊野または伊勢より携えし小石が成長する（全国）
吉野の金嶺山満山金である一一片でも取って帰ろうとすると地震や雨が降る
紀州東牟婁郡高田村の家に河童がくると一匹ずつ小石を投げ込む
白黒の丸石で生まれる男女を占う一美濃雨宮神社に日本の子安の初めと称する子泰社あり
夢の告げに従い大木の梢より鷲の卵を得る一全て金銀だった（美濃養老）
未婚の娘、延暦元年懐妊、三年後に二個の石を産む、成長する（美濃方県郡水野郷楠見村）
岩神一近江土山一水口、嬰兒の平安を祈る大岩一子無きもの祈れば子を得る
尾州六地藏の二番目丹波郡小折常観寺一国に異変ある時は汗を流す一赤子の泣き声もする
石道祖一張州府志一この塚はダイドウ法師を埋めた所
越中舟倉と石動山との石合戦
佐渡の二つ岩では狸が膳椀を貸してくれる

小僧に化けた石地藏 (駿河の鈴川)

石坂と呼ぶ石穴 (椀貸し伝説) (駿河吉原一伝法村膳棚)

さすり地藏一重軽 (甲州勝沼)

信州埴科郡玉依比売命神社も石誕生あり

鬼女に化けて人を脅かす石地藏一若侍に手を斬られる (伊豆仁田の手無仏の石地藏)

相州江尻の傍らの金谷にある石地藏は咳に効く

咳の姥の石像 (相州箱根の風祭)

不思議の石打一池袋村の民を雇うと氏神が惜しんでこの変を起こす

重軽で神意を問う (池袋) 一助右衛門の石

老婆と爺の石像一江戸、咳を祈る (築地稲葉丹後守屋敷) 一仲が悪い

岩神と称して化石を拾う一念じて重軽により占う (武蔵)

吹割の滝一滝壺が竜宮に通じる (上州利根郡東村)

磨墨、岩の上に蹄の跡を残す (下野下都賀郡東大草村) 一磨墨の馬蹄の形を以て硯に例える

印旛郡安食町酒直の岩窟一椀貸し伝説

印旛郡太田の宮田氏の石も成長した

おたつ様という石の祠一子供の咳の願掛け (下総印旛沼臼井)

椀貸し伝説 (茨城真壁郡関本町)

隠れ座頭穴一椀貸し伝説 (茨城関宿付近長洲村)

筑波大石村大石神社の神の石一安産の願掛け一子石を産む

常陸大和田村一掘った石が成長一主石大明神

常陸石那坂の峠の石は大きくなりすぎて、静の明神に蹴とばされた一河原子村と石神の村に飛んだ一残った石の根を雷神石という

石地藏を縛り淵に沈めておく一雨乞い (羽後花館の滝宮明神)

寝地藏一雨乞いの時は立てて田の泥を塗る (羽後男鹿半島鳩崎)

岩手の三つ石一鬼が来ぬ証拠に手形を押した

陸中遠野、山中に老女住む、目に見えぬ岩戸を開閉する音あり一安倍貞任の母

男鹿の神山一九十九段以上登ると不浄の女は石になる

白い石を焼いて山男や山姥に食わす (奥州白髪)

円空上人作の地藏は眼病に効く (北海道渡島黒岩)

石占の石には石敢当と同じく魔除けの効を具える

諸国の石の神の信仰一産の重軽、男女、運勢、体質などの占い

背後でワラシベを切り、石の長さと比べる一合えば願いは叶う

鳥居や大石の上へ小石を投げる一石占

鳥居の笠木の上に小石を投げる行事

遊び地藏で台石ばかりあり、それを力試しの石にしている

抱いた子が石地藏または石になった

餅が化して小石になった一石を焼いて怪物を攻めた

若者が海に小石を投じて戯れると河童は渋江氏に托して憤る

石臼に米一粒入れ、黄金を出す一妻、沢山入れ駄目にする

石を投げて火事と騒ぐと火事になる

天狗の礫一どこからともなく石が飛んでくる

おんぶお化け一娘がおぶさると黄金になる

石を洗えば雨が降る

女が砥石を跨ぐと砥石が割れ、天秤棒を跨ぐとそれが折れる一女に精霊の力

